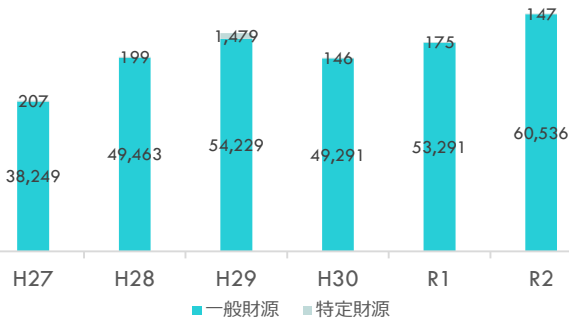
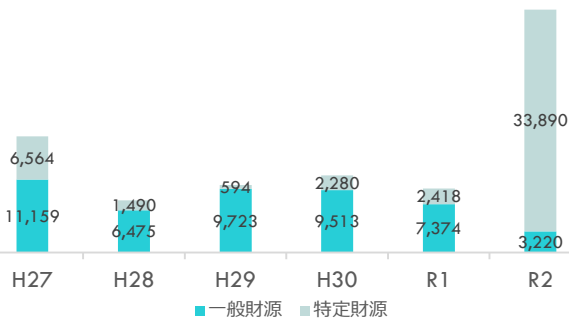


小中一貫教育課、教育振興課

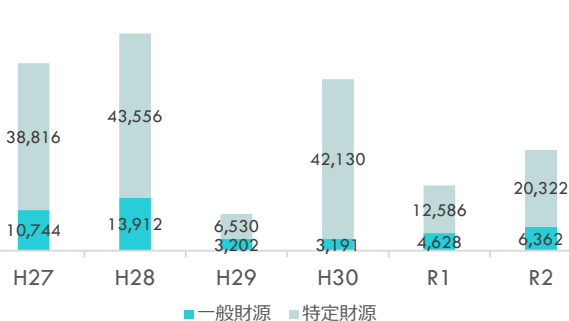
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

学習指導面では、全国学力・学習状況調査（小学6年生及び中学3年生対象）における備前市の平均正答率については、全国平均との比較では年度によって上下しています。また、学習意欲や家庭での学習時間等も十分ではありません。生徒指導面では、不登校の状況は改善しつつありますが、暴力行為、いじめの出現率については、国や県との比較では高い状況にあります。

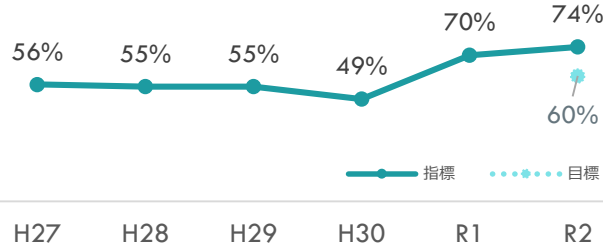
確かな学力や豊かな心の着実な育成のため、国や県との単年度ごとの比較ではなく、同一集団の経年での比較により指導を評価・改善していくことが課題です。また、保育園、こども園、小学校、中学校の連携を強化し、系統的に指導が行える体制を整えていく必要があります。

I C T（※）機器の充実やA L T（外国語指導助手）、学校図書館司書などの拡充配置により、学ぶ環境づくりを進めてきていますので、そうした環境を効果的に活用する指導法の研究を進めていく必要があります。

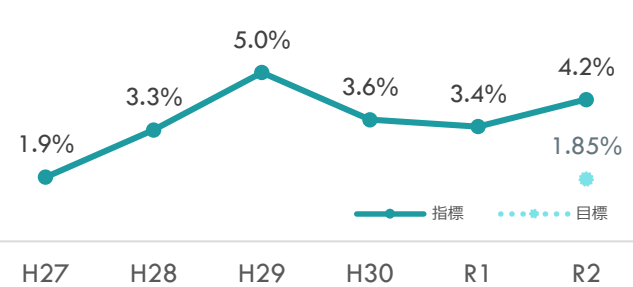
また、校舎や屋内運動場などの学校施設については、災害時の避難場所となり、地域の防災拠点としても重要なことから計画的に改善を進め、長寿命化を推進する必要があります。

成果指標

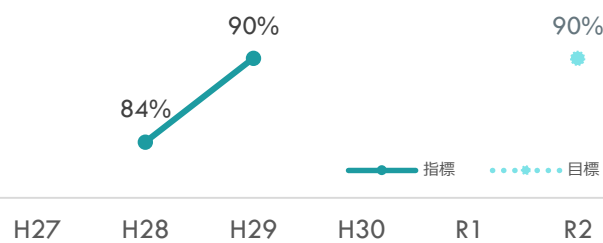
学校が休みの日に1時間以上学習する割合（中1対象県学力・学習状況調査）（%）



中学校の不登校出現率（国問題行動調査）（%）



義務教育9年間で児童生徒を育成する意識をもつ教員の割合（%）



指標の説明・・・

国や県の調査を指標とし、備前市全体の子どもたちの育ちが市民に見えやすいようにしています。目標値は、教育行政の強い決意の表れとして、高い目標値を設定しています。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
指導改善	特色ある学校づくり推進事業	学校の主体的取組を支援		273万円	268万円	事業実施率 100%	中3時全国学力・学習状況調査「地域に関心がある」と回答した生徒の全国平均比未実施
学ぶ環境づくり	ALTの配置	ALT全校常時配置		8,806万円	-	ALTの学校配置率 100%	中2時の県学力・学習状況調査(英語) 正答率の県平均比 算出不能
学ぶ環境づくり	図書館司書の配置	図書館司書全校常時配置		4,420万円	-	図書館司書の学校配置率 100%	小学校図書貸出冊数 104冊 中学校図書貸出冊数 25冊 (年間1人あたり)
ICT機器の充実	GIGAスクール推進事業	学習用タブレットの更新及びネットワーク改修		3億1,578万円	国庫補助金外 31,578万円	児童生徒用2000台、教師用 350台	学習用タブレット更新率 100%
家庭での学習時間の確保	学力向上支援事業	土曜学習の実施、教材の提供等		4,110万円	過疎債 4,070万円	教材配布(中3生全生徒) 土曜学習開催回数(25回×5会場)	教材を活用した割合 87% 参加して楽しかった割合 90%

施策の評価

一次評価者	役職	教育振興課長 小中一貫教育課長	特色ある学校づくり推進事業については、感染症拡大防止の観点から外部との交流行事に制約があったが、各校において地域の特色に応じた教育活動を実施できた。 学ぶ環境づくりについては、コロナ禍においても年度当初からALTが全校配置できた。図書館司書も全校配置ができ、図書貸出冊数は増加傾向にある。 GIGAスクール構想による学習用タブレットの更新については、児童生徒用・教師用計2,350台の更新が終わり、ネットワークの高速化と相まって学習環境が改善されている。 学力向上支援事業については教材配布とともに土曜学習を延125回開催し、アウトカムとしても良好な結果を得ている。
	氏名	草加 浩一 岩井 典昭	
二次評価者	役職	教育部長	令和2年度、コロナ禍にあって、特色ある学校づくり推進事業をはじめ様々な事業活動への制約が強られる中、年度当初からALT及び図書館司書の全校常時配置を行い、施策全体を通じて、その環境づくりに寄与することができた。 今後、各取組の成果を多角的に検証できるよう検討が必要と考える。また、GIGAスクール構想実現に向けた学校ICT環境整備を推進中であり、さらに教職員のICT活用指導力の向上を図っていくことも重要である。
	氏名	石原 史章	